

## 論文審査結果の要旨

本論文について、令和3年8月20日午前10時から12時20分にわたり、京都府立大学文学部会議室において公開審査会を実施した。最初に概要の発表があり、その後、審査委員による質疑が、各部ごとにおこなわれた。以下に本論文の研究上の達成と、質疑のおもな内容を記す。

### 研究上の達成

瓦に対する詳細な検討にもとづいて、長岡京と平安京の造瓦組織のあり方を浮かび上げさせ、それが質的に大きく異なることを示した本論文は、従来の研究を大きく塗り替えるものであり、都城の形成史としても重要な位置を占めることは疑いない。また、都城周辺の諸寺のほか、野、園、山陵の分布をとりあげ、近京圏として把握したことは、文献に「京下」と表れるものの実態を示したと言える。これらについて、王権との関係を視野に入れつつ、その維持管理に関連付けて、離宮や官司、国府や交通路を取り上げたことも重視できよう。ただし、数多くの題材を扱おうとしたために、ややまとまりがなくなってしまう点は惜まれる。こうした課題は残るが、長岡京と平安京の質的な違いに着目しつつ、ともに近京圏を形成し、山背遷都に伴う近京圏の形成として捉えたことは都市形成史として高く評価できる。論文の構成、論旨の進め方も問題なく、図表も丁寧に作り込まれており、模範とすべき論文であると判断する。

### 審査会でのおもな質疑

#### 【第1部】

- ①旧都の瓦の利用を、旧都を壊して退路を断つという理解であるが、再利用するという点からは継承を象徴している可能性はないのか？
- ②藤原京から平城京への変化の際に国際的な影響が想定されているが、長岡京、平安京でも国際的な影響を考える余地はないのか？
- ③瓦から明らかになる造営組織について、勅旨所や造営使（職）など、より具体的に実証できるのではないのか？

#### 【第2部】

- ④「近京圏」についての明確な定義が必要であり、東アジアの都城全体で考えるべきではないか？
- ⑤平安京になって南山城が除かれる一方、交野地域が近京圏に含まれるように、近京圏も時期による差があるが、その意味は？
- ⑥近京圏に野が含まれる理由は何か？
- ⑦近京圏の形成過程を考える上で、山背国府の役割を明確にすべきではないか？

以上の質疑に対して、以下のような応答があった。①従来の長岡京廢都論の怨靈説や未完説では解けないため、新たな見方を提示したいと考えた。②従来の学説でも取り上げられてこなかったが、これから検討してみたい。③これも、改めて今後検討してみたい。④「近京」が文献にはない用語であるため、十分に説明できていなかった。他の時代も参照して考えてみたい。⑤時期による違いは記したが、その背景を含め丁寧に検討する必要性を感じている。⑥野は遊獵の地であるだけでなく、生産の場である園もあり、また窯業生産が近くでおこなわれることもある。こうした点を踏まえて王権との関係をさらに見ていく必要を感じている。⑦畿内の国府が畿外の国府と異なって簡易で遷りやすい傾向がある。国府の機能や性格の違いも検討していく必要がある。

以上の質疑応答からもわかるように、今後の検討すべきいくつかの課題が浮かび上がっている。しかしながら、こうした課題が浮かび上がるのも先に触れた本論文の達成の大きさによると考えられ、基礎的な資料の検討作業に十分に取り組み、詳細な資料提示のうえで、長岡京、平安京の造瓦組織を浮かび上がらせ、その近京圏の形成過程を考古学から明らかにするという本論文のもくろみは十分に達成されているものと判断された。これは、単に考古学上の一つの達成というだけではなく、日本古代史への寄与という点でも大であると評価できる。以上から、本委員会は、本論文が博士（歴史学）の学位授与の評価基準を満たしていると判断し、博士（歴史学）の学位を授与するに値するものと認める。